

第7回 作文・絵作文コンクール
優秀作品集
(令和6年度版)



全国の附属学校園の子どもたちが先生との思い出や感謝の気持ちを
作文・絵作文で表現したものを一冊の作品にまとめました。



一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会

ご挨拶

平素は（一社）全国国立大学附属学校PTA連合会の事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。「作文・絵作文コンクール」開催および優秀作品集の発行にあたり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

第7回目を迎えた「作文・絵作文コンクール」は、わが国の教育を支え、日々子どもたちを見守り育ていただいている教職員の皆様へ感謝の気持ちを、また、その感謝の気持ちを表す「教師の日」の制定へ向け、国立大学附属学校PTAとして支援する目的で企画・開催されています。

最近では、教職員はブラック企業に勤めるのとかわりがないと、教員不足の話題も耳にします。少なくとも、今大学にいる教育学部の学生は教員になりたい、なってもいいと思って大学に入学されたはずです。共働き家庭が増え、習い事や塾、そしてスマホなど家族で過ごす時間も以前と比べ少なくなっています。今までは、家庭や地域で学べたことができなくなっている子どもたちが増え、学校に求めることも変わりつつあります。そのような中、教員を目指す人が減ってきています。私には大学生の息子もいますが、その友人も今、教育学部の学生で、中学校の先生にあこがれて、その道を選んだそうです。教育実習で附属学校を訪れ、教員の道を選んでほしいと思います。

この作品集が、子どもたちから全国の教職員の皆様に届きますよう、そして、教員をめざす学生の皆様にも手に取って読んでいただくことが出来ることを切に願っています。

最後になりましたが、本コンクールを開催するにあたり、ご多忙の中、審査委員長を快くお引き受けくださいました児童文学作家くすのきしげのり先生に感謝の意を表するとともに、たくさんの感謝の気持ちを作文・絵作文にして、応募してくれた全国の子どもたちが、これからも健やかに成長されることを心より祈念申し上げます。

一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会

会長 桑名 良尚



「作文・絵作文コンクール」に寄せて

第7回となる「作文・絵作文コンクール」に今回もたくさんのご応募があったこと、まことにうれしく思います。今回のテーマは「先生へ、普段伝えられない想い、伝えてみよう！」でした。どの作品にも、普段には、なかなか伝えたくても伝えられない、子どもたちの想いが込められていて、文を読みながら、絵を見ながら、心が温かくなり、感動するばかりでした。

日々、子どもたちは、学校や園での活動を通して、先生とかかわり、先生から学び、時には、先生と共に学び、喜び、悲しみ、悔しがりながら、全身の感覚や心をフル回転させて、成長を続けているのだと改めて実感いたしました。いつも、見守ってくれている先生への尊敬や感謝と、それを抱かせる先生の情熱や必死さが、その情景とともに鮮明に浮かんできます。懸命に子どもたちに向き合い、ご支援ご指導くださる先生方に改めて感謝申し上げます。

また、これらの作品に込められた想いは、これからもずっとずっと、書き手の子どもたちの心に大切なこととして、残っていくのだろうとうれしくなります。

そして、このような感動を生み出す日々の教育活動は、子どもたちにとっての宝であり、財産となります。附属学校園で、毎日繰り広げられている感動の教育活動が、これからも変わらず続きますようお願いしております。

全国国立大学附属学校連盟

理事長 木山 慶子



「作文・絵作文コンクール」に寄せて

この度、一般社団法人全国国立大学附属学校PTA連合会主催の「第7回全附P連作文・絵作文コンクール」の開催及び作品集の発刊に、心よりお喜び申し上げます。また、教育の最前線において御尽力されている教師の皆様や子供たちに寄り添っている保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

入賞した作文や絵作文を読むたびに、子供たちが毎日楽しく学校に通えていることに対する幸せな気持ちと、そのために先生方が様々な努力をされていることに対する感謝の気持ちがあふれてきます。さらに実際の学校現場ではここには掲載しきれない無数のエピソードが毎日生まれていることを想像すると、教育という営みの価値に改めて気づきかされ、教育に携われることを誇らしく思えます。

その一方で、今、学校現場は様々な課題が山積しています。時代の急速な変化に伴う学校や子供たちを取り巻く環境の変化、これからの時代で子供たちが生き抜く力を身に付けていくための教育内容や教育環境の変化、労働環境の変化や教員の年齢構成等に起因する教師不足…真摯に向き合わなければならない課題ですが、ネガティブなニュースが悪循環を招いているようにも思えます。

この作品集を通して、国立附属学校を中心に、実際の学校現場で行われている尊い営みが社会に周知され、社会全体で子供や学校そして教師を支えていくムードが形成されることを願っています。

文部科学省 総合教育政策局
教育人材政策課 教員養成企画室

室長 若林 徹



審査委員長 講評

この「作文・絵作文コンクール」のテーマは、「先生へのメッセージ」や「先生との思い出」です。第7回目となる今年度も「作文・絵作文コンクール」には、全国の国立大学の各附属学校から素晴らしい作品の応募がありました。

私は児童文学作家として世界中の子どもたちの心に届ける作品を書いてきました。私の作品には、魔法使いが出てきたり突然不思議な力がついたりということはあまりありません。子どもたちの心の中にあるたいせつな思いをテーマにしたものばかりであり、こうした物語の背景は家庭や学校です。とりわけ学校が舞台の作品が多いのは、子どもたちにとって、たくさんの人と関わり、いろいろなことを学ぶ機会に溢れているからです。

これまでの応募作品同様、今回の応募作品にも、そんな学校の様子や先生との学校生活がいきいきと表現されていました。さらには、先生に対する信頼や尊敬や感謝の気持ちも読み取ることができ、審査をしながら心動かされる作品がたくさんありました。それは、応募者一人一人に、そうした素晴らしい先生との心に残る出会いや学校生活があったということに他なりません。あたりまえだと思われがちな毎日の学校生活のいろいろな場面には、多くの先生方の温かいまなざしがあるのです。

子どもたちの環境を作るのは、私たち大人です。そして、子どもたちが育ちゆく環境を考えると、何よりたいせつなのは、人的環境として子どもたちにかかわる私たち大人の姿でしょう。そうであるならば、子どもたちの素敵な作品は、きっと、子どもたちの環境を作り、なおかつ子どもたちにとっての環境である先生方にとっても、大いに励みとなるに違いありません。

子どもたちの毎日に、そして先生方の人生に、たくさんの笑顔があることを心より願っています。

審査委員長

児童文学作家

くすのき しげのり



会長賞

東京学芸大学附属幼稚園 竹早園舎 年長

稲生 幹大

20 × 20

ぼくのいつもいえないこと
 とうきょううがいの太鼓でよくうたえん
 竹早えんしゅう年ちゅういのうがいた
 ぼくは、ようちえんがすきです。だから、
 おまじおやあみはしせん。おやあみしたく
 ないから、あこしぐあいがわるいかもとあま
 たらはやくねまあ。ぼくは、たぐんよう
 ちえんにい、こいるからせんせいのこともよ
 くわかります。まちだせんせいはおもいがす
 きだし、やぎせんせいはボムキッパスがす
 きです。ぼくはよくちえんぶおこることに
 ちあがるので、せんせいがおこるとうなるか
 もあかります。まえに、ぼくがやぎせんせい
 のおはなしをうたうとき、アノをきわ、こしま
 たとき、やめようね。とちゅういされた
 のにとして、おまじおやあみしたく、てしまっ
 わ。こしましました。あるときやぎせんせいは
 かんちん、やぎせんせいはね、一かいみ
 のちゅういはやぎだよ。二かいみはつのがは
 えでウシになるよ。三かいみはオニだよ。し

い、たのび、ぼくは、へまじいぞ、いまウシ
 だぞしとおも、こやめるようにきをつけまし
 た。それからぼくはウシはみていません。オ
 ニは一かいみみたことはありません。やぎは
 よくみまう。まちだせんせいは、いざりはく
 だんのまえに、しつもんばくだんがくるから
 ぼくは「お」といときをつけることができま
 す。たてえは、あいておへやにもいるうね
 といわれたのに、は、し、たてきに「
 かんちん、さ、きーかい、たよね？」
 といつもんばくだんがきまう。ぼくは「お、
 しもきをけるのでせーです。ほかにも
 かんちんこれしたるうなるのか？」
 といいうつもんばくだんもあります。
 ぼくは、せんせいにほめてもらうことや、
 うれいいことをい、てもらうことがたくさん
 あります。で、おこられるときは「あ、あ
 こられるぞ」といってきけるけれど、はめら
 れるときは、よそできません。このよえ、
 ぼくがはきまきかい、かどういばこのお

20 × 20

くか、でさたさま、まちだせんせいにか
 んちゃん、あてよか、たぬえーといわれ
 こと、でもうれしか、たいれで、いきなりだ
 たからなんていっていいかわかりませんで
 した。それに、あやすみしたつぎのかによ
 ちえんにいたる、びんがんで「かんちん
 びん」だ、たい？、とぎつとたましめ、こ
 れたときも、てもうれしか、たけれど、
 よそらしいなか、たが、ことばがくちか
 らでこまきせんでした。もし、ほめられ
 まよ、そうできた、つありがとう、なか
 れしいきもちだよ、とがせんせいにえ
 になとおもいました。
 たけは、ようちえんのせんせいへ、よう
 えんのおいしいかきもたべさせてくれ
 がとう。おしりみたいな、かたちのおも
 かきは、すぐくぬ、あ、たよ、えん、の
 かたをおしえ、こく、あてなり、が、さ
 のびさの、さる、いいね、
 とほめて、て、ありがとう。うれしいこ

いつもいきなりあきるから、じんびいてい
 くて、いえないけれど、よくはいつもうれ
 き、ちだよ、し、うが、こうにいって、も、
 せんせいのことは、わすれないよ。

20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

だいすきな幼稚園。先生のことも大好きですね。先生の好きなものもよく知っています。
 その大好きな先生におられるときも先生の様子をよく見ていますね。先生の注意には段階がある
 こと、いきいきと書かれた文章からは、その段階によって変わっていく先生の表情が浮かんで
 きて、声まで聞こえてきそうです。こうして先生が表情や声で伝えてくれるから、どうすればいいか
 を考えることができるけれど、ほめられるときは、最初からたくさんほめられるし、それも突然だか
 ら、うまく言えないことがあったのですね。そのことをこの作文でちゃんと先生に伝えることができ
 ましたね。

優秀賞 作文

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 年長 服部 詢也

せんせい、あらう
かなぎちだいがくぶぞくふちゃん
あんさやう はっりいけんか
かけっこで、せんせいは、いっもいまばん
ほくは、せんせいをあいぬきたくて、がんば
ってはしゃいだら、はやくまがるのがとくにに
なつたよ。
のびのびフリースタイルのダンスのねんり
やうは、おぼえることがあおい、みんなであ
よりよくするわざがある。ほくはいそいそし
てせんしゅうをしてた。せんせいは、いつち
かもきこえて、ほめたりをかうりするげだ
いっかいだけあった。
みなさんのダンスがじょうずすぎて、すご
くかえどうして、いじめのめざましくて、
そろってたら、どつかくれなかったし。
とんとた。みんなようせんたいかとあったか
ら、みんなばぐいうと、せんせいは、
「はるかいいから、おめでとう」
といいた。ほくはおもしろくてわらったけど

せんたいかたぐくういふとうしたのガ、す
 っごくうれしかつた。だからぼくは、ダンス
 をいうはいかんばつた。
 のびのびとステスバルのひ、ぼくは、セ
 んガ、いままでいちばんじょうずにできた
 おとうさんとおかあさんは、ぼくのダンスも
 リレーもいっしょにほめた。せんせい、おけう
 さんとダンスをいっしょにがんばってうれ
 ありがとう。みんなるってしんどいけど、う
 れしいってわかつたよ。

～くすのき先生からのひと言～

のびのびフェスティバルのダンスの練習。先生は、一生懸命おしえてくれたのですね。みんながじょうずに踊れた時、思わず涙が溢れる先生は、とても素敵なお先生です。先生といっしょにいろんなことを頑張ってお宝のような思い出ができましたね。

優秀賞 作文

静岡大学教育学部附属浜松小学校 1 年

石田 脩仁

どうぶつ村と先生がおしえてくれたこと
しずおか大学き「うき学部」そく浜松小学校
ぼくの学校には、どうぶつ村があります。
七月に二年生からおしえてもしい、一年生が
おせわをしています。
ぼくは、うきぶの「おもろ」グループにな
りました。そうじのために、うんどつじよう
にうつそうとすると、へやのすみで体を丸め
てふるまっています。いつも耳を立てていて、
大きな目でまわりを見ていました。ぼくは、
どうぶつにさわったり、おせわをするのかは
いめてでした。だって、こもできないし、なで
あげたくておにげしてしまうのです。
そんなとき、やつ先生が言いました。
「どんなに年と、たどつづでも、一年生は
大男に見えちやうから、すわてこるなか
けるといいよ。」
ぼくは、それをきいて、
「そうか。おもろもぼくとおなじでこれか」

20 × 20

たのかもしれない。
と気づきました。おせわをする人が二年生か
ハ一年生にわたり、こえやなでがたがらう
からです。
ぼくも入学したばかりのときや、じつとち
がう考えの人はなすとき、きんちようして
いました。でも、やつ先生は、ぼくのはなし
をよくきいてくれます。うまう大しようにで
さなかつたときも、
「なるほど。」
「こいつのことだね？」
とさいごまできいてくれます。
「どうとくのいきさつでは、は、びよつが
なかくなつても、みんなからたくさんいけん
がきても、不ワイトボードにかいてくれます。
正しいやてんさうはなくて、せんごん切なみ
んなの気もちだからです。」
ぼくと友だちかけがえしたときには、二人
のせつめいをきいて、大いようびになるまで
となりにいってくれました。

20 × 20

そついうとまは、うれしいし、あんしんし
 ます。ほくとやつ先生はちゃんとつういてい
 るとおもうからです。
 だが、いまは、おもちにあんしんしてもい
 っようにしています。休日とはばんのときは、
 父と母に
 づわってやさしい言葉ではなしかけるんだ
 よ。『おもち、こわくないよ。そうじ、す
 ぐにおわるよ』むりやりだ。こはしないほ
 うがいいよ。
 とおしえています。一年生のみんなでさあさ
 たいさくを考へたり、どうぶつのためにはな
 しあうのがとてもたのしいです。
 まだだ。こはできないけれど、おせあもす
 るのがはやくなりました。すぐにかざに入っ
 てくれたり、みんなはトイレでさるように
 なり、おもちときょうかしているからです。
 一年生とおもちは、ちゃんとつういてい
 るとおもいます。

20 × 20

ぶつ村のこともたくさんおしえてあげたいで
 す。
 なるほど。
 こういうことだね。
 となくさんうなずいて、一年生のはなしを
 くきいて、たのしく学校にきてもらいたいで
 す。

20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

学校の「どうぶつ村」でウサギの世話をしたのでですね。先生が教えてくれたウサギの気
 持（相手の気持ち）を考えながら接すること。それはいつも先生がしてくれていることだ
 と気づいたのです。それがわかれば、きっとすばらしい2年生になることでしょう。

優秀賞 作文

秋田大学教育文化学部附属小学校 4 年

津司 昌宗

遊びを楽しんだり、文章を正しく読んで要約	間山というじゅ業があります。そこでは言葉	週月曜日に京野副校長先生による『作家の時	一人目は、京野まさき副校長先生です。毎	二人の先生です。	た。ぼくにこのことを気づかせてくれたのは	れほど重要であるのかということも学びまし	左右されずに自分の考えを発信することがど	しかし、四年生のじゅ業を通じて、周りに	と思えてしまうことがあるからです。	ぼくの答えを言わなくてもいいのではないか	ていたことより正しく聞けたとき、もう、	ラスの友だちが言ったことの方がぼくの考え	度かありました。ぼくが指されるより先にワ	手を挙げることをためらってしまふことが何	言が合っているのかどうか自信を持ってなくて、	じゅ業中に意見を聞かれたとき、自分の発	四年 津司 昌宗	秋田大学教育文化学部附属小学校	自分を信じる力
----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	-------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	---------------------	----------	-----------------	---------

20 × 20

クラスの中から、	が金色の人をどう思うか』です。	で話し合いをしました。テーマは『かみの毛	のじゅ業で多様せいについてクラスみんな	したじゅ業からでした。その後、公開研究会	す。始まりはハワイの小学生とズームで交流	味を学びました。	分が考えたことをさちゃんと伝え切ることの意	分で何かを作り出す苦労と楽しさ、そして自	読んで自分の見聞を広げることの大切さ、自	ぼくは京野副校長先生から、様々な文章を	度も書き直しました。	ろから生み出して文章にしていく作業は大変	で、満足いくものが出来上がるまで何度も何	度も書き直しました。	界観や登場人物、セリフなどを何も無いとこ	という課題に対して最も力が入りました。世	組みました。中でもぼくは、短い小説を書く	り、物語を書いてみたりと色々なことに取り	したり、博物館を取材して新聞を作ってみた
----------	-----------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------	-----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	------------	----------------------	----------------------	------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

20 × 20

「かみの色を選ぶのは一人一人の自由なのだ
から、どんな色の人でもわたしたちは受け
入れるべきだ。」
と、答えが出てきました。
ぼくも頭では、この意見が理想的な考え方
であるとはわかります。
けれども、ぼくの気持ちはちがいます。
生まれつきかみの毛が金色の人については
別ですが、元々黒いかみの日本人なのにわざ
わざ金色にそめている人は、ぼくには周りを
おどすためにそめているように見えてしま
います。なぜなら町の中で前から金色のか
みの日本人が近づいて来ると、その不自然さ
にぼくはこわくなってしまからです。見な
れていないだけなのかもしませんが、こわ
い気持ちはおさえられませんか。
この意見を言ったら井上先生やクラスのみ
んなはどう感じるのだろうか。色々な不安は
ありました。ぼくは思い切って手を挙げて
自分の考えを発表しました。

20 × 20

すると、井上先生からは良い意見だと言っ
てもらえました。そして、ぼくの意見に対し
てクラスの友だちが意見を出してくれ、さら
に別の友だちも意見を出してくれたことで、
新しい発見がありました。
その発見とは、もつともらしく聞こえて、
みんなが正しいと思える答えだけが全てでは
なかったということです。自分の意見を伝え
て他の人の意見を聞くことをくりかえすと、
話し合いの最後にまとめられた答えを自分の
頭でも心でも受け入れることができるかわか
りました。
四年生は自分で考えて自分で決めて、自分
で工夫をしなければならぬことばかりでし
た。けれども、あきらめず考え続けることで
自分に自信が持てるようになりました。
ぼくの世界を広げてくれた京野副校長先生
と井上先生へ、顔を見て言うのは照れるから
この作文で伝えたいです。先生、ありがとう
ございました。

20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

周りに左右されずに自分の考えを発信する。それは文章を書くことであっても発表であっても。そのためには、いろいろな場面で自分のことを深く見つめ考えを整理することができなければなりません。そのたいせつさに気づいたことがよく書けています。

優秀賞 作文

京都教育大学附属京都小中学校 5年 小嶋 悠生

先生からの玉手箱	京都教育大学附属京都小中学校	五年 小嶋 悠生	後期前半、理科で「もののとけ方」の授業がありました。水の量や水溶液の温度を変えながら、溶けるものとの関係を考えていきました。岩塩は水でも溶けましたが、ミョウバンはお湯にしか溶けませんでした。それらは溶けると見えなくなるし、よくわからないところもありました。その授業のゴールに、担任の青木先生がミョウバンの結晶作りを用意してくれていました。僕は、結晶作りの前から楽しみで仕方ありませんでした。	やっとその日が来ました。一時間目と二時間目に理科室に行きました。しっかり手順の説明を聴きました。まず班ごとに、ビーカーに水とミョウバンを入れて温めて、溶かせるだけ溶かし、それぞれプラコップに分けました。それからエナメル線の端を熱してミョウバンの種結晶をくっつけ、それをミョウバン
----------	----------------	----------	---	---

20 × 20

の水溶液に浸して冷ました。僕は種結晶をエナメル線に付けるところが得意だった。班では積極的に手伝いました。結晶は上手くいくと正八面体になるはずでした。少しでこぼこしてしまっただけど、初めて自分で作った結晶はとても特別な物のように感じられて、大事に持ち帰り家族に見せました。青木先生からは「溶かしてもう一回とチャレンジして、大きくてきれいなものを作ってみよう」と言われました。僕は、これまでで一番面白い実験だったので、従兄弟と一緒にやってみたいなと思いました。	その後の単元のテストでは満点を取ることができました。「もののとけ方」の授業の最初の頃はぼんやりとしていたところもあってたけれど、しっかり理解することができていたのが嬉しかったです。教科書の「大きなミョウバンをつくってみよう」の資料にはりかいたままではこ、と書かれています。僕
--	---

20 × 20

は、これは青木先生が僕たちに教えてくれたキラキラの玉手箱だと思いました。

結晶の実験も班ごとで行いましたが、これまでも様々なことを班で協力しながら活動してきました。僕たちのクラスでは毎週「問題に挑戦」という宿題があります。様々な角度から頭をフル回転して考えないとわからない難しい問題です。毎回、ああでもない、こうでもないと考えなければなりません。不思議と楽しいものです。それは青木先生が、わかる人とわからない人がいる問題ではなく、誰も分からないような問題を提示するからです。僕は、青木先生が

「向こう側が見えないような高い塀でも、何処かから梯子を持ってきて協力して乗り越えてほしい」

と話していたことがとても印象に残っています。だから難しい問題や、班での関わりも全てが、僕たちへの玉手箱なのだと気付きました。僕は先生から受け取った玉手箱を心に留

20 × 20

めて、これからの学校生活も頑張っていきたいと思っています。

20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

ミョウバンの結晶を作る実験、わくわくしますね。その他にも「問題に挑戦」で、みんなで協力して様々な角度や視点からの見方、捉え方、思考をフル回転して考えること。きっとそれは、楽しい活動を通して、大きな成長をもたらすでしょう。

優秀賞 作文

山梨大学教育学部附属中学校 2年 光本 葉月

歌が紡いでくれる思い
山梨大学教育学部附属中学校
二年 光本葉月
六年ぶりに味わう、なんともいえない緊張感を抱えて迎えた中学校登校日初日。始業式を終え、学年集会が体育館で開かれ、学年の先生方が一人ずつ自己紹介をしてくださいました。これで集会は終わるかな？と思ったり、突然主任の先生が、今から歌いますと、いっせに出した。それも学年の先生方全員で。え!! 中学の先生って歌うの？歌詞の書かれた紙が全員に配られて、副主任の先生はギターを持ち出して来た。どうやら歌の伴奏を披露するようだ。……って弾けるんだ?! 私たちの頭の中とその空間に溢れる混乱をもろともせず先生方は歌い出した。『星影のエール』。私の担任の音楽の先生を除き、お世辞にもものすごく上手なわけではなかった。しかし、先生方が笑顔で語りかけるように歌うその姿に思わず釘付けになった。なんだろう、この心をぎゅと掴まれる感

20 × 20

覚。それまでの緊張がほぐれたように、なんだか優しく暖かい空間にそこは変わっていた。でも先生方は、一体なんのためにこんなにも一生懸命に歌ってくれたのだろうか。月日が流れ、再び同じように集会が開かれた終業式。そしてまたまた主任の先生が「歌います！」と。しかし私たちは前のような混乱状態ではなく、その演奏を受け入れる体勢だった。ギターの加わって私の担任の先生のピアノも登場し、コンサート開始。音を間違えてしまっても、伴奏とズレてしまっても、ただひたむきに謳歌する先生方。その先生方の姿に私たちも背筋を正して聴いていた。演奏が終わると、前のようにな少し控えめな拍手とは違い、割れんばかりの大きな拍手で包まれた。そしてどこからともなく飛び交う「アンコール!」の声。先生方も笑っている。っじゃあもう一回!!」また観喜の声があがる。さらに先生はい、下

20 × 20

「今度はみんなも一諸に歌ってね。」
「いや、いきなりこの曲は難しいです！」と思
たものの、その楽しい雰囲気は釣られて、み
んなわからないうちに歌った。演奏がさらに
崩れていくのに、誰もやめようとはしなかつ
た。先生方の歌声が、私たちの心に響いたか
らだ。ああ、なんかいいなあ、先生方と私た
ち生徒の間に壁はなく、和気藹々とした時
間を楽しんでいる今が。そう思った。
普段から私たち緑学年の先生同士の仲は良
く、職員室をのぞくと、小さな話題がス
盛りあがっていることも多い。もちろん厳し
い時もあるが、いつも一番に私たちのことを
考えてくれていて、先生方への感謝
に浸りながら歌った。星影のエアールは、一
年の終わりに暖かい風を吹かせてくれた。
晴れ渡った空の下、私たちは進級し二年生
となった。
変わらず学年集会が開かれ、主任の先生が
「また歌おうかなと思っただけ、時間がなく

20×20

「歌います！」
と。私は胸を高鳴らせて演奏を待った。今年
の曲は「歩み」。新しい先生も加わり、再び
歩み始めた音楽グループのようだった。
「合唱曲が君たちにとって特別なものにな
るかどうかは、君たちがこの合唱にどれだけ
思いを込めるかにかかっています。」
この言葉は、主任の先生が私たち合唱を
するにあたり学年通信に記載した言葉だ。こ
の意味を、先生方は自分たちが歌うことで教
えてくれた。そして込めた想いは私たちへ
の「おめでとう」かもしれない。いよいよ定
番化してきた先生方のコンサート。だが私は
毎度毎度新しい感動を覚えずにはいられない。
「で、こんなにも素敵なおプレゼントを送り
続けてくれるのは、きっと私たちの先生だけ
だから。」

20×20

～くすのき先生からのひと言～

学年集会で歌ってくれる先生方。何とすてきな先生方でしょう。臨場感あふれる文章からは、先生方の表情や生徒のみなさんのいきいきとした様子が浮かび、そのはつらつとした明るい歌声まで聞こえてくるようです。

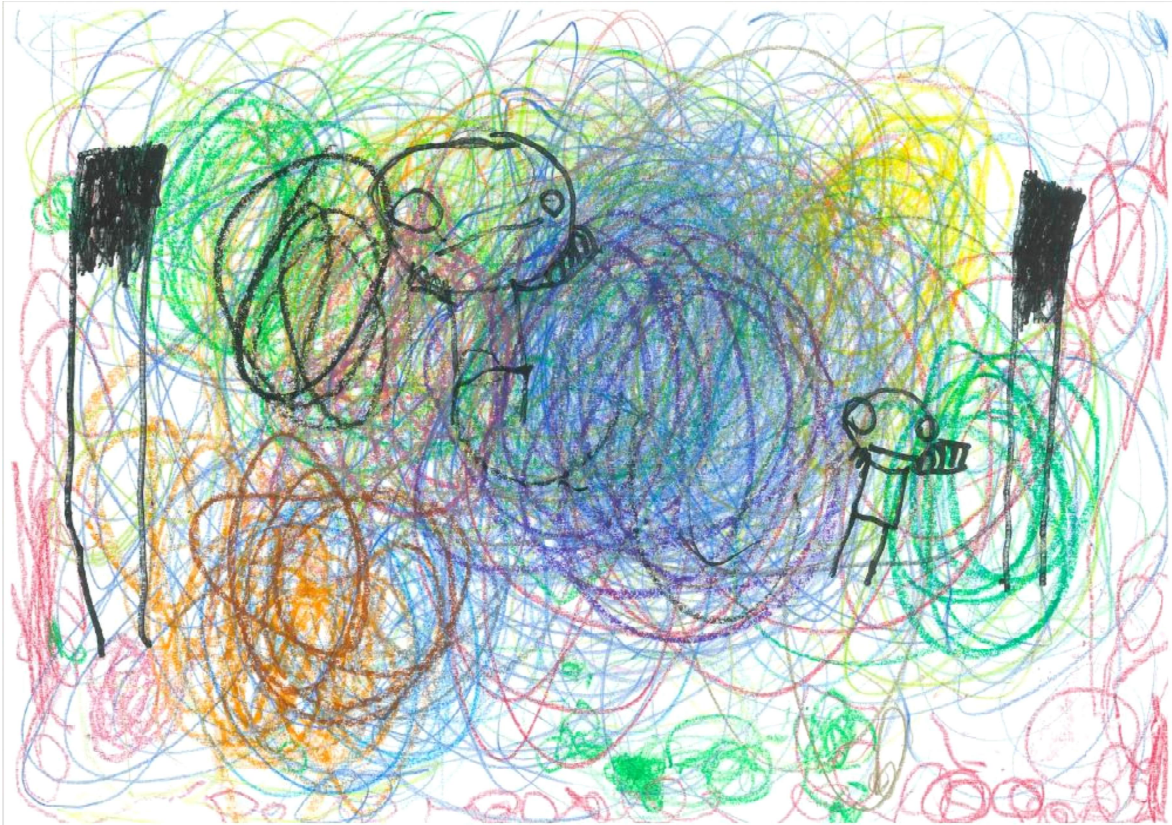
京都教育大学附属特別支援学校 高等部2年 宮本 萌那

～くすのき先生からのひと言～

鑄込みも、たたらも、機械ろくろも教えてもらって、大皿まで作れるようになったのですね。すごいです。教えてくれた先生もいっしょに喜んでくれたでしょう。小学校の時の担任の先生にプレゼントした豆皿は、きっと宝物のようにたいせつに使ってくれていることでしょう。

優秀賞 絵作文

鹿児島大学教育学部附属幼稚園 年少 川畑 奏大



門	鹿見島大学教育学部附属幼稚園	年少	かわばた	かなた	僕は幼稚園が好きです。幼稚園に行くと先生やお友達と遊ぶのはとても楽しいです。でもたまに幼稚園に行きたくない気持ちになります。お母さんはお友達とケンカしたの？家でもと遊びたかったの？と聞きます。別にケンカしたわけでも嫌なことがあったわけでもない。なんとなく行きたくない。そんなときお母さんが「じゃあ、門まで行ってみよう」と言いました。僕は先生に休みますって言うために門まで行くことにしました。門に着くと先生たちがにっこり迎えてくれて、行こうって、遊ぼうって誘ってくれました。モヤモヤした気持ちが嬉しいような恥ずかしいような気持ちに変わって先生と手をつないでお部屋に行きました。	先生、いつも門でにっこり待っていてくれるありがと。だいすき。
---	----------------	----	------	-----	---	--------------------------------

 20×20

～くすのき先生からのひと言～

幼稚園が好きだけど、先生や友たちと遊ぶのはたのしいけど、たまに行きたくない気持ちになるのですね。でも、幼稚園の門まで行ってみるとそこには笑顔の先生が待っていてくれて。もやもやした気持ちを変える先生の笑顔は、素敵なパワーですね。

優秀賞 絵作文

長崎大学教育学部附属幼稚園 年中 江崎 乃咲



長崎大学教育学部附属幼稚園	おそどのおしぐべり
年中	えさまのえ
みかせんせい	はがさしいせんせいです。
つもあそんでくれます。	ターザンロープをわ
たしがしているところをみてくれたり、ごど	ものいえでいっしょにおままごとをしてくれ
たり、ふえおにをしたり、おいかけっこをし	てくれます。
えにバケツにはいっただみずをみかせんせいと	いっしょにはごぶのがたのしいです。
んせいといるとホッとするからです。	あたし
はあんさんのときがかわひっこしてしま	した。
たのがみかせんせいです。	ドキドキしていた
けど、おさしくしてくれたからうれしかった	です。
のクラスにもどってほしいです。	もどってま
たらまたたくさんおそどではりまっしておし	ぐべりをしたいとおもいます。

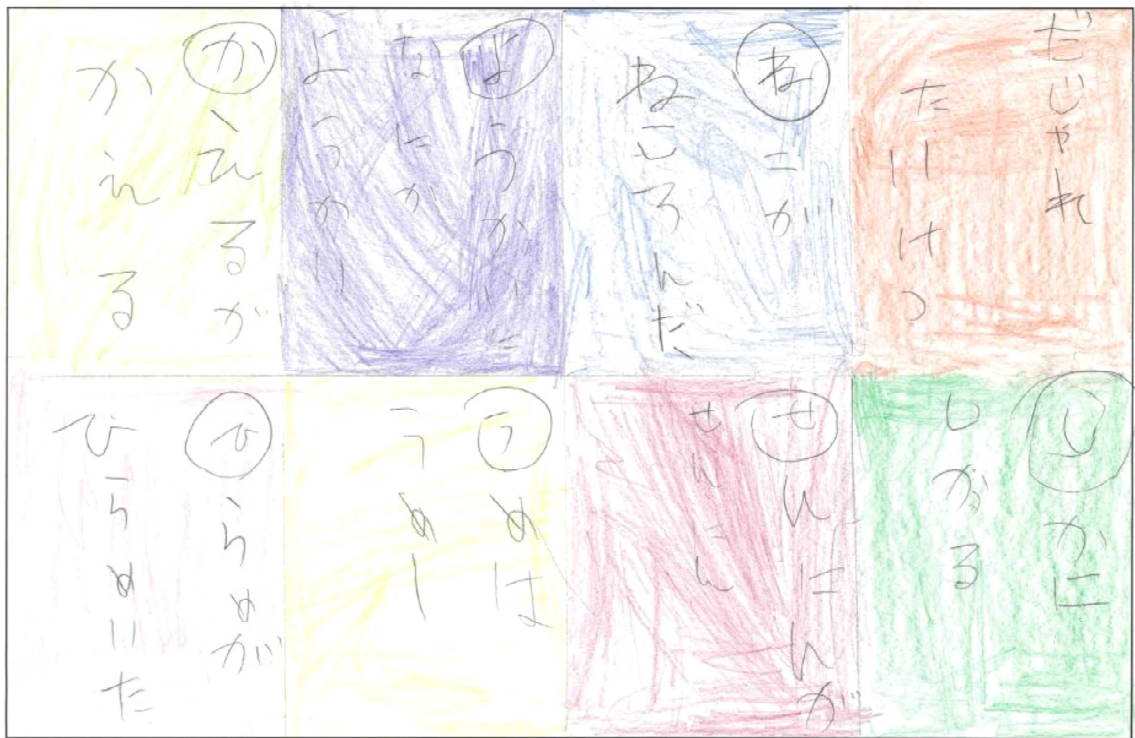
20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

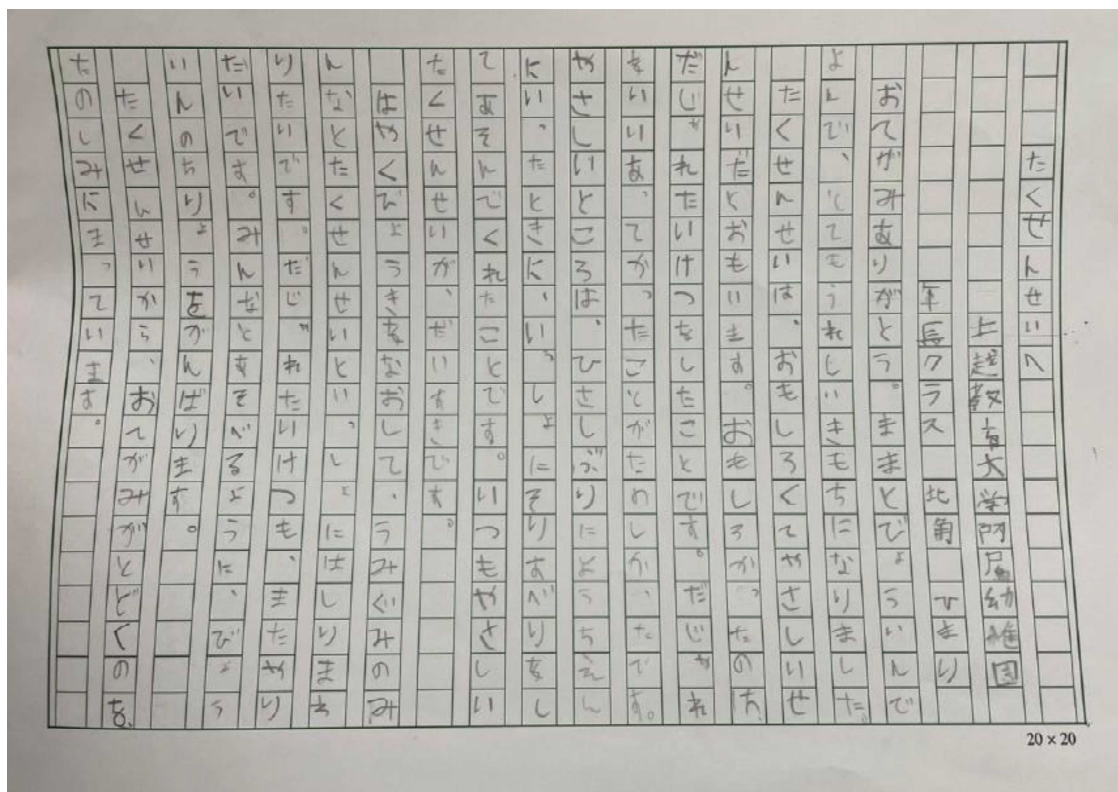
引っ越してきた時は、不安がいっぱいだったでしょう。ターザンロープ、おままごと、ふえおに、おいかけっこ、先生と一緒に遊び見守ってくれていたのですね。先生といっしょに遊ぶ楽しいようすがよくわかります。

優秀賞 絵作文

上越教育大学附属幼稚園 年長 北角 ひまり



学校名 上越教育大学附属幼稚園 名前 北角 ひまり



～くすのき先生からのひと言～

病院でお母さんと一緒に読んだ先生からの手紙。とてもうれしかったでしょうね。ダジャレ対決をしてくれる先生との楽しい思い出が描かれています。先生もきっと楽しかったにちがいありません。そして何より元気になることを願っていることでしょう。

優秀賞 絵作文

茨城大学教育学部附属小学校 1年 梅原 丞一朗



魚の先生、川しま先生
いはらき大学きょういふ学ぶふそく小学校
川しま先生は、さかさ川エフクラブの魚の
先生です。さかさ川にはヌマチチブ、ヨシノ
ボリ、ホトケドジョウ、ミナミナガサなど
びっぴりぎゅぎゅいいます。ざつと四かん
で見ていたたん水魚の多くは、川しま先生に
見せてもらって、好きになりました。
魚をあみでつかまえるときは、あみを水の
中にたてて自分のそばにおいて足でいるように
しておいこまこいつりのときは、さあをも
っていきまが自分のしたいのたがさまできた
ら金ねはなすこと。つかまえたあんなとも
おしえてくれました。十二月にスナマツメを
二ばんにつかまえられたときは、よくもうれ
しかったです。川しま先生も「丞一朗くん、
やっだな！」とほめてくれました。
ぼくは生きものか大好きです。三年もいっ
ぱい魚を見つけてかんきょうを守りたいです。

20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

ヌマチチブ、ヨシノボリ、ホトケドジョウなど、さかさ川には、貴重な生き物がいるのですね。実物を見た感動や捕まえるときのコツ、そして、先生といっしょに観察したであろう多くの生き物の様子がいきいきと描かれています。

優秀賞 絵作文

愛知教育大学附属名古屋小学校 3年 長谷川 夏蓮



学校名 愛知教育大学
附属名 古屋小学校

名前 長谷川 夏蓮

[illegible] 20×20

～くすのき先生からのひと言～

学級目標「ここに来てよかったね」。そう言える日が来るようにどうすればいいかを考えること。そしてそのことを考えながら過ごす学級での日々。その日々の中でも「ここに来てよかった」といえることは、もう素晴らしい学級になっているのでしょう。

優秀賞 絵作文

福岡教育大学附属福岡小学校 5年 佐藤 湊人



学校名 福岡教育大学附属福岡小学校

名前 佐藤 湊人

見守ってくれる人
福岡教育大学附属福岡小学校
5年 佐藤 湊人

僕の学校には個人探究という時間がある。自分で決めたテーマを深く探究していく活動だ。僕は絵が好きなので、鉛筆デッサンを追求している。ある日、フクロウの絵を描いてみると羽の部分の模様が難しく、何度も描き直し描けないことで自信を失いかけていた。すると、担任の木川先生が「絵、上手だね。」と僕の方をのぞき込みながら言ってくれた。僕を見てくれていてという安心感が心を温かくしてくれた。僕を認めてくれた一言が、失敗の壁をこわし、自分を信じさせてくれた。木川先生、僕の僕を見てくれてありがとう。

20 × 20

～くすのき先生からのひと言～

個人探究の時間、ふくろうの絵を描いていて、うまく描けずに自信をなくしかけていた時に声をかけてくれた先生。その時の様子がよく描けています。自分について客観的に考えられることは素晴らしいことです。

優秀賞 絵作文

山梨大学教育学部附属中学校 2年 笠原 心愛



学校名 山梨大学教育学部附属中学校

名前 菅原 心愛

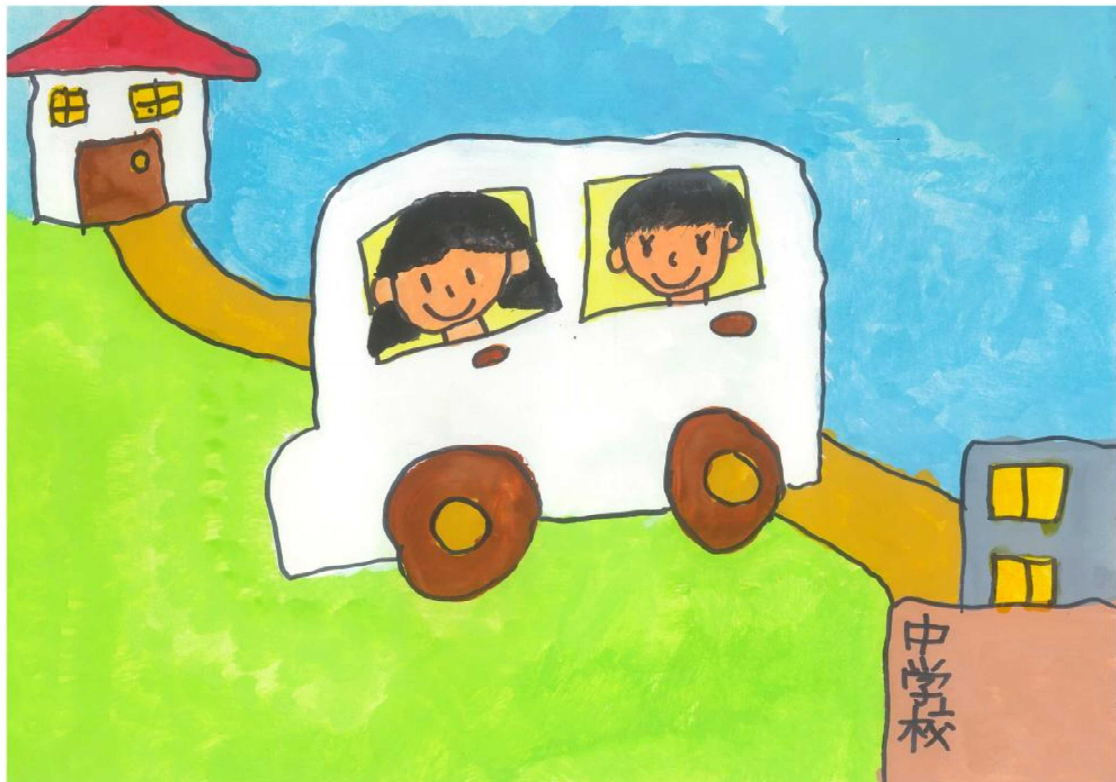
[illegible] 20×20

～くすのき先生からのひと言～

先生方の仲の良さ、チームワークは、子どもたちの学校生活において、たいせつな、そしてすてきな環境となっていることは間違いありません。はつらつとした、楽しい学年の雰囲気、学校の雰囲気がよくわかります。

優秀賞 絵作文

大分大学教育学部附属特別支援学校 中学部 1 年 田邊 愛珠



わたしの夢
大分大学教育学部附属特別支援学校
中学部 1 年 田邊 愛珠
わたしは、中学校が大好きです。
かおり先生と着かえの練習、お金の勉強、
聞き取りの勉強も好きです。
神崎先生に動画のお願いをするのも好きで
す。
冬休みは、かおり先生にあえなくて、サミ
しいです。学校だけでなく、かおり先生に東
京のお家いきこはいいです。お家こいっばい
遊んでいすも楽しみなす。

～くすのき先生からのひと言～

着替えの練習、お金の勉強、聞き取りの勉強。先生は、生活の中で役に立つこと、大人になっても役に立つ大切なことを教えてくれているのですね。信頼する先生といっしょにいたいという気持ちが伝わってきます。

会長賞

作文 東京学芸大学附属幼稚園 竹早園舎 年長 稲生 幹大

優秀賞

作文部門 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属幼稚園 年長 服部 詢也

静岡大学教育学部附属浜松小学校 1年 石田 脩仁

秋田大学教育文化学部附属小学校 4年 津司 昌宗

京都教育大学附属京都小中学校 5年 小嶋 悠生

山梨大学教育学部附属中学校 2年 光本 葉月

京都教育大学附属特別支援学校 高等部2年 宮本 萌那

絵作文部門 鹿児島大学教育学部附属幼稚園 年少 川畑 奏大

長崎大学教育学部附属幼稚園 年中 江崎 乃咲

上越教育大学附属幼稚園 年長 北角 ひまり

茨城大学教育学部附属小学校 1年 梅原 丞一朗

愛知教育大学附属名古屋小学校 3年 長谷川 夏蓮

福岡教育大学附属福岡小学校 5年 佐藤 湊人

山梨大学教育学部附属中学校 2年 笠原 心愛

大分大学教育学部附属特別支援学校 中学部1年 田邊 愛珠

特別賞

最優秀学校賞 愛知教育大学附属名古屋小学校

優秀学校賞 鹿児島大学教育学部附属幼稚園

鹿児島大学教育学部附属中学校

審査委員長 略歴

1961年生まれ、徳島県鳴門市在住。鳴門教育大学大学院修了。
小学校教諭、鳴門市立図書館副館長を経てオフィスKUSUNOKI
を設立。現在は作家として児童文学を中心とする創作活動と講演活動
を続けている。

絵本『おこだでませんように』（小学館）が2009年度全国青少年読書
感想文コンクール課題図書に、2011年には、IBBY（国際児童図書評議
会）障害児図書資料センターが発行する推薦本リスト「世界のバリア
フリー絵本」に選出される。同作品で第2回JBBY賞バリアフリー
部門受賞。2013年には『メガネをかけたら』（小学館）が全国青少年
読書感想文コンクール課題図書に選定される。『メロディ』（ヤマハ
ミュージックエンタテインメントホールディングス）『ええところ』
(Gakken)、『ふくびき』（小学館）『ともだちやもんな、ぼくら』『
ええことするのは、ええもんや』（共にえほんの杜）『ダメ!』（佼成出
版）『しょうじき50円ぶん』（あかつき教育図書）等、小学校（2024年
度改訂）・中学校（2025年度改訂）の教科書において、小学校1年生～
中学校3年生の全学年の教科書に作品が採用・掲載される。『あなた
の一日が世界を変える』（PHP研究所）『Life』（瑞雲舎）『わたしがは
やくねるわけはね……』（小学館）等200作品を超える著作は海外でも
広く読まれている。

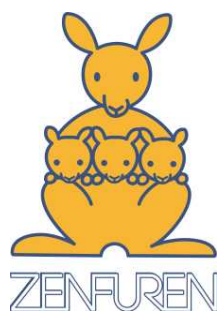
- ・ 日本児童文芸家協会評議員
- ・ 絵本応援プロジェクト代表

- ・ 徳島児童文学会会長
- ・ 四国大学文学部非常勤講師
（絵本・児童文学創作）

オフィシャルホームページ

<http://www.kusunokishigenori.com/>





- ・ 主 催 一般社団法人 全国国立大学附属学校PTA連合会
- ・ 担 当 広報委員会
- ・ 発行日 令和 7 年